

2025 年 12 月 16 日

あいの風とやま鉄道(株)

## あいの風とやま鉄道の安全に関する取組み

## 1. 基本的な取組み

当社は、「安全性の確保」を最優先として、法令順守のもと社員一人ひとりが責任を自覚し行動する取組みを進めると共に、社員の声や他会社での発生事故等の情報を基にリスクを検証し、必要なハード・ソフト対策を講じています。

この事により運行開始以来、大きな事故（列車事故）もなく今日まで運営を行なっておりまいたが、更なる安全性の向上に向け、今後も引き続き着実な取組みを推し進めてまいります。

## 2. 安全目標及び事故・輸送障害の発生状況

## (1) 安全面で重大な事象

『発生件数を「0 件／年」』を目標としている。

事象	2022 年度 実績(件)	2023 年度 実績(件)	2024 年度 実績(件)	2025 年 11 月末実績(件)
列車衝突	0	0	0	0
列車脱線	0	0	0	0
列車火災	0	0	0	0
お客様の死亡事故[0]	0	0	0	0
作業者の死亡事故[0]	0	0	0	0

## (2) 安全面で危険では無いが、お客様にご迷惑をかける事象

鉄道設備の故障や社員の取扱い誤りにより、旅客列車に 30 分以上の遅延や運休が発生したもの

系統	2022 年度 実績(件)	2023 年度 実績(件)	2024 年度 実績(件)	2025 年 11 月末実績(件)
指令	0	0	0	0
駅	0	1	0	0
乗務員	0	0	1	0
車両	0	3	3	2
施設	1	0	2	1
電気	2	1	0	1
その他	0	1	0	0
計	3	6	6	4

## 3. 鉄道におけるリスクと当社の状況

鉄道における重大リスク事象として、列車「衝突・脱線・火災」がありますが、「衝突・脱線」については ATS や車両異常挙動検知装置、「火災」については難燃素材の使用などのハード設備により、発生を抑えています。また、保守については基準を設定し、お客様に不安なく乗車していただけるレベルを確保しております。

課題としては、社員の約 8 割が鉄道経験 10 年未満と経験歴が短いことから、継続した訓練などにより、技術継承と人材育成を行なっています。

例として、6 月 8 日並びに 9 月 18 日深夜、隣接する他社と合同で車両故障時の救援訓練を実施、8 月 25 日深夜、魚津駅にて停電時の対応訓練を実施しました。

#### 4. 安全に関する取り組み事項（2025 年度重点行動計画）

安全の確保は、一人ひとりの社員が自身の役割を正しく理解し確実に実行することで成り立ちます。そのために、決められた「ルールへの遵守」、意識ある「基本動作の実行」、業務に対する「知識・技能の向上」に向け以下の具体的取組を行っています。

1. 決められたルールを遵守し、意識ある確認と基本動作を実行
  - ・ 規程及びルール制定の経緯や背景等の理解と遵守
  - ・ 意識ある指差確認・喚呼による 確実な 「基本動作」、「基本作業」の実行
2. 業務に対する知識・技能のレベルアップ
  - ・ 自身の業務を確実に遂行できるよう、知識と技能のレベルアップ
  - ・ 学んだ知識や技能を業務の中で活かせるよう日頃から訓練を実施
3. 自然災害や異常時における対応能力の向上
  - ・ 事故や自然災害、テロなど不測の事態での対応力向上を目的に、系統別の訓練を継続するとともに、各箇所を横断する全社的な「総合対応訓練」を実施
  - ・ 各系統が参加する現車を活用した異常時対応訓練や運転士シミュレーターの活用による異常時対応能力の向上
4. 安全管理体制を確立
  - ・ 運輸安全マネジメントの理解を深めるための研修を継続して実施
  - ・ 各箇所のヒヤリ・ハット情報を社員で共有し、自箇所における類似事象の発生防止に努める
  - ・ 労働災害防止を目的とした専用施設での体感研修やVRを活用した業務上のミスを実感できる訓練の実施



信号確認風景



異常時対応訓練風景



運輸安全マネジメント研修  
受講風景

#### 5. 安全に係る設備の充実

2025 年度設備の導入・改修（主なもの）

項 目	備 考
保安防災対策	・ 線路のり面の保全（コンクリートシート） 等
安全・安定輸送	・ 呉羽駅熱風式融雪装置の更新 ・ 信号機等の LED 化の推進 ・ 踏切保安度の向上 等
保安度向上	・ 法指定踏切の拡幅整備（新村踏切） ・ 重点区間等におけるレール交換 ・ 県東部地区光ケーブル化の推進 等
老朽対策	・ 庄川橋りょうの塗装 ・ 早月川橋りょうの塗装 ・ 石動変電所主変圧器の更新 ・ 電化柱（コンクリート）の取替え 等